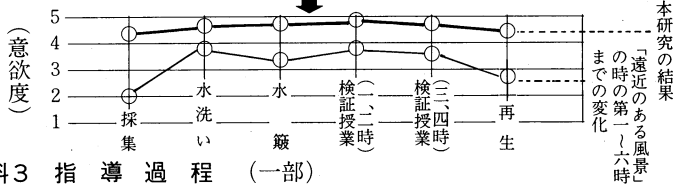


資料2 意識調査とその結果

年 組 氏名 \_\_\_\_\_

今日の授業で自分の気持ちに一番近いものを○でかこみなさい。

(意 欲 度)	集中してできた	5	4	3	2	1	集中できなかった
(興 味 関 心 度)	おもしろかった	5	4	3	2	1	つまらなかった
(参 加 度)	がんばってやった	5	4	3	2	1	気がぬけた
(満 足 度)	スカッとした	5	4	3	2	1	モヤモヤした



継続的な造形活動が展開されるようにする。

材料体験の場合は、図工科の授業にとどまらず、創意の時間や放課後などに設けた。また、教師側から一方的におしつけるのではなく、児童の発言を大切に、話し合いによって進めた(資料1)。

検証授業に当たっては、次のような方針で実施した。

(一) 年間計画では四時間扱いの題材な

資料3 指導過程 (一部)

段階	学習活動・内容	時間	主な発問・指示	予想される児童の反応	指導上の留意点
粘土遊び (材料体験) …… 題材全体の導入	1. 粘土遊び (材料体験) をしながら、十分粘土にふれる。	25分	• この箱に入っているのは何でしょう。	• ビーマンです。 キュウリです。 なすです。 粘土です。	• ブラックボックスを用い意欲化をはかる。ブラックボックスの中には、野菜を入れ手触り(触覚)で立体としてのおもしろさを知らせたい。最後に粘土を入れてあてさせる。
	(1) ブラックボックス		• なぜそう思いますか。	• でこぼこしているから。 • ごつごつしているから。 • ねばねばしているから。	• 粘土を使って、他教科とは一味が違った考え方をさせる。 ○○+○○○=○ ○-○=○
	(2) 粘土の計算 2+3= 1-1=		• 2+3はいくつですか。 • 1-1はいくつですか。	• 5です。 • 0です。	• 粘土を使つて、他教科とは一味が違った考え方をさせる。 ○○+○○○=○ ○-○=○
	(3) パナナ作り		• 目かくしをしてバナナを作りましょう。 • どこで見えてつくりませんか。	• えーむずかしい。 • 手で見る。	• 目かくしをして、触覚のみで立体表現させる。いわゆるバナナの粘土によるスケッチであるが、見えないので、手指から感じとったことを粘土におきかえて製作させる。
(4) 粘土ねり	• 粘土をねりましょう。	• 粘土をねる。	(省略)		
導入	2. 風船をふく顔について話し合う。	5分	• 風船をふく時の顔はどうなるでしょう。	• ほほがふくらむ。 • 口がとんがる。 • まゆがあがる。	• 実際に一人が風船をふくらまし、もう一人がその様子を観察する。 • 特に、顔の表情の変化に着目させる。

(二) ので、四時間分の検証授業を行う。

指導過程の中に材料体験の場を設定

(三) 六年生の彫塑学習における基本的事項をおさえて指導に当たる。

- (四) 材料の特質を理解させるため、目かくしをして製作したり、粘土でたし算やひき算をするといった触覚を重視した活動を取り入れる。
- (五) 自分たちで作った粘土を使つて製作に取り組ませる。
- (六) 授業の終わりに意識調査をする。(資料2)
- 六、研究のまとめと今後の問題点
- (一) 与えられた粘土や市販の粘土で製作するのはちがって、粘土作りから取り組んだことよつて、一人一人の子どもの生活経験が広がった。粘土を水簸する段階でも様々な遊びを考え出している姿がみられた。
- (二) 授業の中に材料体験の場を設定した結果、直接製作に入るよりも意欲的に取り組んでいた。このことは粘土遊びで得た粘土のもつ特質が製作に生かされたためであろう。
- (三) 材料体験の意義や目的・材料のもつ特質などを明確にしたことは、高度な指導にエスカレートすることがさけられ、指導の重点化という点で有効であった。
- (四) 粘土を用いた彫塑学習では、材料体験の有効性が発揮されたが、他の領域でもあてはまるかまだわからない。絵画・工作・デザインなどの領域でも検証していきたい。